

令和 8(2026)年度東京大学大学院

工学系研究科 建築学専攻 博士後期課程 入学志願者案内

1. 出願資格

入学志願者は大学院博士後期課程の出願資格（詳細は工学系研究科博士後期課程学生募集要項を参照）を有していなければならない。ただし、その専門分野および資格取得年次は問わない。また、外国の大学院において修士に相当する学位を授与された者は、原則として博士後期課程の入学の前に少なくとも6ヶ月間研究生として在籍しなければならない。なお、博士後期課程の2026年度入試は、ここで示される試験のみである。

2. 希望指導教員と出願書類および推薦状について

大学院入学者は指導教員のもとで研究を行うので、入学志願者は研究の指導を希望する教員名（第一希望、第二希望、各1名ずつ）を、4ページに示す指導教員の一覧から選択し、別紙1・A欄に記入すること。別紙1～7は出願時に、他の出願書類と共にアップロードすること。

建築学専攻の受験には以下を提出する必要がある。(1)～(3)については、工学系研究科に「提出書類等」と一緒に提出すること。

(1) 別紙1のA欄には希望指導教員を、B欄には専門課題IIで選択する群に○を記入すること。また、別紙2～7に研究計画、受入研究室の選定理由、研究遂行能力の自己分析について記載すること。

(2) 「英語能力試験の成績証明書」：英語能力は受験者の提出するTOEFL iBT、またはTOEFL iBT Home Editionの公式スコアで評価する。スコアの提出方法は、工学系研究科が配布する「大学院入学試験外国語試験（英語）TOEFLスコアの提出について」の指示に従うこと。スコアのアップロードによる提出期限は2025年8月8日とする。提出するスコアは2023年9月以降に受験したものに限る。

(3) 推薦状

東京大学大学院工学系研究科以外の大学院修士了又は修了見込みの者は、推薦状2通（書式自由、A4 1枚以内：一通は出身大学院の教員を差出人とする）を提出すること。推薦状2通は出願時に、他の出願書類と共にPDFファイルとしてアップロードする。必要ならば、関係資料を添付してもよい。

3. 募集人員と入学時期

2026年度の建築学専攻・博士後期課程の募集人員は16名である。なお、建築学専攻では、入学後の研究指導が特定の教員に偏ることを避けるため、教員一人当たりの受入人員に制限を設けている。合格者の入学時期は、通常、2026年4月である。ただし、工学系研究科博士後期課程学生募集要項にも記述があるが、2025年9月までに大学院修士課程を修了あるいは修了見込みであれば、2025年10月に入学することが可能である。ただし、外国籍の入学志願者は、在留資格認定証明書COEの発行が遅延する傾向にあることから2026年4月入学を強く勧める。

4. 選抜方法

以下に示す第1次試験及び第2次試験を課して受入予定者を選抜する。

(1) 第1次試験

(A) 筆記試験

試験科目	試験時間	適 用
1. 外国語※1		英語 TOEFL の公式スコアを所定の方法で提出。
2. 専門科目※1 専門課題 II	3 時間 または 4 時間	次の 4 群の中からいずれか 1 群を選択して解答する。選択する群を、出願時に別紙 1 の B 欄に記入すること。 第 1 群 建築設計課題 (4 時間) 第 2 群 建築計画・建築史・構法系課題 (3 時間) 第 3 群 建築環境系課題 (3 時間) 第 4 群 建築構造・建築材料系課題 (3 時間)

※1 東京大学大学院工学系研究科修士課程を修了または修了見込みの者に対しては、筆記試験は省略され、専門課題 II の受験および英語能力試験の成績証明書の提出が免除される。

(B) 口述試験

一人当たり 10 分程度の面接を行う。面接の使用言語は日本語または英語とする。口述試験を受けない場合は失格とする。

(2) 第2次試験

修士論文等（修士論文がない場合は設計を解説したレポートなど、修士論文に代わりうる内容を含むもの）を発表し審査を受ける。

志願者は修士論文（日本語又は英語）、あるいは発表内容の概要を提出する。その他の言語の修士論文、あるいは発表内容の概要は、その論文の内容を日本語もしくは英語で要約したもの（A4 様式で約 30 ページ以内）を次ページに示す締切日までに建築学専攻事務室へ提出しなければならない。また、概要のもととなった本論文や図面なども提出すること。

なお、本専攻の修士課程から継続して博士後期課程に進学する志願者は、後日、専攻内学生ポータルサイトから示す本専攻の提出要領に従う。

5. 試験日程

(1) 第1次試験

	試験科目	日 時	携行品	備考（重要）
(A) 筆 記 試 験 *1	英語			スコア提出
	専門課題 II 第 1 群	8 月 27 日（水） 9:00～13:00	鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、コンパス、T 定規物差、着色用具、三角定規、その他専攻 Web サイトを確認のこと	
	専門課題 II 第 2 群 第 3 群 第 4 群	8 月 27 日（水） 9:00～12:00	鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、コンパス、三角定規	

試験科目	日時	携行品	備考（重要）
(B) 口述試験 (面接)	8月28日(木) 午後		集合場所・時間等の詳細は本専攻の Web サイト (http://arch.t.u-tokyo.ac.jp/) に掲載する。

※ 試験開始後 30 分を過ぎての入室は、いかなる事情があっても認めない。

*¹ 東京大学大学院工学系研究科修士課程を修了した者または修了見込みの者に対しては、この試験は省略される

(2) 第 2 次試験

試験科目	対象者	日時	試験場	備考（重要）
修士論文等の 発表と審査* ¹	2026 年 4 月入学 希望の全志願者	2026 年 1 月 26 日 (月) 1 月 27 日 (火) 予定	1 号館 11 号講義室 及び 12 号講義室	発表・審査会等の 詳細は追って掲示 する。 修士論文等を 2026 年 1 月 13 日 (火) 16 : 00 までに当専 攻事務室に提出す る。
	2025 年 10 月入学 希望で、2025 年 9 月に本専攻修了 見込みの志願者	2025 年 7 月 28 日 (月) 7 月 29 日 (火) 午前	1 号館 15 号講義室	発表・審査会等の 詳細は追って掲示 する。修士論文等 を 2025 年 7 月 22 日 (火) 16:00 まで に当専攻事務室に 提出する。
	2025 年 10 月入学 希望* ² で、上記 に該当しない志 願者	2025 年 8 月 28 日 (木) 午前	1 号館 15 号講義室	

*¹ 東京大学大学院工学系研究科修士課程建築学専攻以外を修了した者または修了見込みの者は、発表当日、配付用に論文の概要等（ページ数自由、日本語又は英語）を 20 部程度用意すること。

*² 2025 年 9 月までに修士課程を修了した者または修了見込みの者でなければならない。

6. 注意事項

- (1) 入学試験受験上の注意（本専攻の Web サイトに掲載（<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>）をよく読んでおくこと。
- (2) 受験票の写真で試験時に本人照合を行う。本人と確認できない場合は、失格となることがある。写真を修正した場合は失格とする。
- (3) その他、本専攻 Web サイト（<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>）で、試験会場ならびに試験での携行品を含む関連情報を周知するので、随時確認すること。

7. 問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻
 E-mail : exam@arch1.t.u-tokyo.ac.jp

建築学専攻の指導教員と専門領域の一覧（教員名は五十音順）

一覧に記載されている教員は受入れが可能であるが留意事項のある教員については事前に問合せを行い、指導方針について確認を行うこと。

教員名	所属	系	専門領域
赤司泰義 教授	工・建	環境	建築エネルギーシステム、建築熱環境、運用・管理、コミッション [△]
浅井竜也 准教授	生 研	構材	耐震工学、耐津波設計、鉄筋コンクリート構造
糸井達哉 准教授	工・建	構材	リスク・レジリエンス工学、荷重論、地震工学
今井公太郎 教授	生 研	計画	建築計画・建築設計・都市解析
伊山 潤 教授	工・建	構材	鋼構造・耐久性工学・地震波動解析
岩船由美子 教授	生 研	環境	エネルギーシステム評価
海野 聡 准教授	工・建	歴史	日本建築史・東アジア木造建築史・文化遺産
大岡龍三 教授	生 研	環境	都市・建築環境工学(熱・空気・エネルギー)・サステイナブルエンジニアリング [△]
大月敏雄 教授	工・建	計画	建築計画・住宅地計画・ハウジング・住宅政策・復興デザイン
小淵祐介 准教授 [○]	工・建	意匠	デジタルアプリケーション・デザイン思考・都市生態学・建築情報学
加藤耕一 教授	工・建	歴史	西洋建築史・近代建築史・建築理論
川添善行 准教授	生 研	意匠	建築意匠・風景論
菊本英紀 准教授	生 研	環境	都市・建築環境、環境制御工学
楠 浩一 教授	震 研	構材	耐震工学・強震観測・鉄筋コンクリート構造
腰原幹雄 教授	生 研	構法	木質構造・建築構法
小山 毅 特任准教授 ^{*1}	工・建	構材	計算力学・耐水構造
権藤智之 准教授	工・建	構法	建築生産・建築構法
斎藤 豪 特任准教授 ^{*3}	工・建	構材	セメント化学・資源循環型建築材料・建築材料化学・分析化学
坂本慎一 教授	生 研	環境	建築音響・騒音制御
佐久間哲哉 教授	工・建	環境	音環境・建築音響・騒音制御・居住環境
田尻清太郎 准教授	工・建	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造
舘 知宏 教授	総文研	構材	構造幾何学、コンピュータショナルデザイン
谷口景一郎 特任准教授 ^{*2}	工・建	環境	建築環境エンジニアリング、建築環境シミュレーション
林 憲吾 准教授	生 研	歴史	アジア都市・建築史、アーバンサステイナビリティ学
藤田香織 教授	工・建	構法	木質構造・伝統構法
本間健太郎 准教授	生 研	計画	建築計画・空間デザイン数理
本間裕大 准教授	生 研	計画	建築・都市計画、交通工学、社会システム工学、数理最適化
毎田悠承 准教授	震 研	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造・損傷制御
前 真之 准教授	工・建	環境	建築環境 特にサステイナブル住宅のデザインと要素技術開発
松田雄二 准教授	工・建	計画	建築計画、医療福祉施設計画、ユニバーサルデザイン
丸山一平 教授	工・建	構材	資源循環・低炭素材料開発、極限環境材料開発、保全工学
宮田翔平 特任講師 ^{*2}	工・建	環境	スマートビルシステム、建築設備
安原 幹 准教授	工・建	意匠	建築意匠・建築設計
山田 哲 教授	工・建	構材	鉄骨構造・耐震工学・免震構造・制振構造
吉岡英樹 准教授	工・建	構材	建築防火工学、都市防火

(注) 所属 工・建：工学系研究科建築学専攻 本郷
震 研：地震研究所 弥生
生 研：生産技術研究所 駒場II

総文研：大学院総合文化研究科 駒場 I
系 構材：構造・材料系

(留意事項)

- *1 2026年3月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定
 - *2 2028年3月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定
 - *3 2029年3月任期満了予定、任期更新あるいは関連教員による指導継続の予定
- ^Ω Architecture and Urban Design Course (G30-UDA) の学生のみ選択可能。

A 研究の指導を希望する教員を「令和 8(2026)年度東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士後期課程入学志願者案内」4 頁の表から最大で 2 名選択し、以下の欄に教員名を記入すること。

Applicants must select up to two prospective academic supervisors from the table on pages 4 & 5 of "2026 Guide to the Doctoral Program Entrance Examination Department of Architecture, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo" and write their names in the following table.

	第一希望 1st choice	第二希望 2nd choice
教員名 Academic supervisor's name		

B 希望する群に○を記入すること。 Fill in a "○" for the desired group.

入学志願者案内 4. 選抜方法の(A)筆記試験参照 Refer to 4 (A) in the guide

専門課題 II Specialized Subject II	第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 4 群

(建築学専攻) (Department of Architecture)

この別紙の枚数は厳守すること。

The number of sheets should not be changed.

【研究計画】【Research Plan】

(1) 研究の背景 (Background of the research)

博士課程学生として取り組む研究の背景について、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。既往文献を用いて研究課題がどのように重要で新規性があるかを明快にしてください。必要に応じて適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。

Please provide the background of the research you will undertake as a doctoral student, including the competitive research situations and challenges in the related field and how you came up with the idea for this research plan. Please clearly the importance and significance of the research topic with a critical review on the existing literature. Please provide a clear description of the research theme by using conceptual diagrams, if necessary. Please limit this section to one page.

【研究計画】(続き)【Research Plan (Continued)】

(2) 研究目的と実施内容 (Research Objectives, Plan, and Actions)

前述の研究の背景を受けて、目的と実施する内容を明確に記載してください。1)研究目的、研究方法、研究内容、2)作業仮説とその重要性、独創性、3)全体目標のうちどこまでを明らかにするのか、4)研究目的達成時にどういった影響を研究分野および社会に及ぼすかの見通し、を記載してください。所属予定の研究室において先行研究がある場合には、受験者が果たす役割、境界条件がわかるように記載してください。研究方法は3年間のタイムスケジュールも記載してください。本項目は2頁以内に記載してください。

Based on the aforementioned research background, 1) clarify the research objective and goals, research theme, and describe the research methods used to achieve this theme in detail, 2) describe the research working hypothesis, the uniqueness, originality, and research significance about your research compared to previous research, 3) clarify the goals of your doctoral coarse research, and 4) what impact you expect on the research field and society when you achieve your research goals. If there is previous research in the laboratory to which the candidate will belong, please describe your roles. Please also include a three-year schedule. Please limit this section to two pages.

(3) 受入研究室の選定理由 (Reasons for Selection of Lab)

採用後の受入研究室を選定した理由について、次の項目を含めて1頁以内で記入してください。

- ① 受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施についての打合せ状況
- ② 申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開

Please provide the reasons for selecting the host laboratory, including the following items within one page.

- (1) How you came to know about the host laboratory and the status of meetings regarding the implementation of the research after your employment.
- (2) Advantages of conducting research at the host laboratory for the proposed research project, and new developments/developments.

以下の点に該当する場合は、チェックボックスを黒、あるいは✓を記載ください。

If any of the following apply, please mark the checkbox in black or with a ✓.

- 修士の研究室と同じ研究室を志望している。I am applying for the same laboratory as that for my master's degree.

【研究遂行力の自己分析】 Self-assessment of research abilities

本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に2頁以内で記入してください。

現在までに公開された論文、受賞歴、調査プロジェクト経験などアピールできる点も記載ください。

Please provide specific information on (1) your "research strengths" and (2) "elements you consider necessary for further development as a researcher" in the relevant field, including the proposed research plan in this application, based on your research experiences or comparable experiences you have within 2 pages.

Please also include any appealing points such as published papers to date, awards received, research project experience, etc.

